

国立大学図書館協会 資料委員会
オープンサイエンス小委員会

アンケート「研究データのポリシー策定および管理等への図書館の関与について」の追跡調査まとめ

2023年6月

国立大学図書館協会

国立大学図書館協会資料委員会アンケート

「研究データのポリシー策定および管理等への図書館の関与について」の追跡調査まとめ

オープンサイエンス小委員会より実施した標記アンケート追跡調査の回答をまとめた。

1. アンケート概要

(前回)

回答期間：令和4年7月22日－8月31日

対象：国立大学図書館協会会員館（92機関）

回答機関：計77機関（回答率84%）

(今回)

回答期間：令和5年5月29日－6月16日

対象：国立大学図書館協会会員館（92機関）

回答機関：計85機関（回答率92%）

2. 研究データのポリシー策定状況および傾向

・前回と比べて「未着手だが予定あり」「未着手」の機関が減少し、「策定済」「策定中」が増加した結果、約半数が策定できているかもしくは目途が立っている状況になった。

	2022.9	2023.6
1. 策定済	10 (11%)	22 (24%)
2. 策定中	14 (15%)	21 (23%)
3. 未着手だが予定あり	32 (35%)	27 (29%)
4. 未着手	21 (23%)	15 (16%)
5. 未回答	15 (16%)	7 (8%)

・策定に関わっている部署は、あまり変化がないと思われるため、今回分析していない。前回は「図書館以外では、研究協力（推進）部署、情報基盤部署、URA等がある。また、理事や副学長等が参加するWGを設置した機関では、構成員として情報部門や各分野の教員も見受けられる。」と分析した。

・策定済22機関中、図書館が実質的に策定事務の中心的な役割を担っている機関が4、主担当ではないが図書館も策定に参画している（または対応予定）機関が17であり、主担当が別であり図書館は策定に参画していないのは1機関のみである。

・対象機関92機関のうち、61%の56機関で図書館が策定に関わっている。主担当が別であり図書館の策定への参画有無は未定という機関が12機関(13%)あり、主担当が別であり図

書館が策定に参画していないのは6機関(7%)となっている。

・大学規模でみると、8学部以上の大学でポリシー策定が進んでいる傾向がある。

	策定済	策定中	未着手だが予定あり	未着手
8学部以上	60%	25%	10%	5%
5～7学部	17%	33%	44%	6%
2～4学部	18%	12%	41%	29%
単科大学	11%	30%	33%	26%

3. 研究データ管理において図書館が果たすべきと考える役割

「現状もしくは今後、図書館は研究データ管理の中でどのような役割りを果たしているか、または果たす予定か」への回答をデータポリシー策定状況の段階別に整理した。いずれの段階においても、「機関リポジトリ（公開基盤）での公開支援」は共通して想定されている。他には「GakuNin RDMを含めた研究データ管理基盤の構築と支援」「研究データの利活用支援・メタデータ付与に関するサポート」は未着手以外の段階で想定されており、未着手機関ではやはり未定が多いものの、策定済機関でも図書館としての取り組みがない機関もあった。

	策定済	策定中	未着手だが 予定あり	未着手
オープンアクセスポリシー / 研究データポリシー策定支援	-	-	○	-
ガイドライン・解説等の作成および更新	○	-	-	-
機関リポジトリ（公開基盤）での公開支援	○	○	○	○
GakuNin RDMを含めた研究データ管理基盤の構築と支援	○	○	○	-
公開基盤と管理基盤のシステム連携	○	-	-	-
DMP(データ・マネジメント・プラン)作成支援	○	○	-	-
研究データの利活用支援・メタデータ付与に関するサポート	○	○	○	-
研究データ管理に関わる情報提供・広報・啓発・リテラシー教育・研修	○	○	-	-
研究データ管理に関わる広報	-	-	-	○
学内関係者との連携	○	-	○	-
研究データ管理支援人材の確保・育成	○	-	-	-
直接の取り組みはない / 未定	○	○	○	○

4. 今後の課題について

各機関があげた課題をポリシー策定の進捗状況ごとに整理した。

1) ポリシー策定前の機関

前回同様、ポリシー策定の必要性は認識できているものの、議論を行う場が設置されていない、設置してもあまり進展しない、担当が別部署であるため、学内の検討状況が把握できない等の課題が多く、一部には学内における研究データの管理や利活用の意義、必要性の認識不足をあげる機関もあり、学長、大学執行部、教員、事務局とも概要は承知していても、理解が進んでいないと考える機関もあった。

さらに、研究データに個人のプライバシーに関する情報が含まれる場合が多いため公開の基準や公開方法に留意する必要があると感じている機関があるほか、以下のように国や国立情報学研究所等への期待や意見も見られた。

- ・ 研究データポリシーは国立情報学研究所が作成される雛形をベースにして構築する予定であるため公開を待っている
- ・ データ保存（集約）環境等について、全国的な指針が今後示されるのか否か。各機関で独自に取り組む必要があるのかが不透明
- ・ 研究協力・推進・戦略等の担当部署ではほとんど話題になっていないようである。国が各大学の研究担当部署へ直接働きかけしてほしい

2) ポリシー策定中と策定済の機関共通であった課題

ポリシーに実効性を持たせることを課題としており、大学ポリシーの下で、ポリシーの解説、ポリシーの実効性を確保するための実施方針、研究者の具体的な行動の指針となるガイドライン、規程・規則等の策定が必要とする機関が多く、また学内における研究データ管理についての意識向上、ポリシーや研究データ管理基盤などに関する周知・啓発・浸透等の広報活動と研究データ管理・利活用の業務に関わる人材の育成、職員のスキル向上を課題にあげている。

3) ポリシー策定中の機関

まずは研究データの管理・利活用・公開に関する教員ニーズの把握を行っている機関や、前回もあったポリシーに実効性を持たせることに課題を持つ機関、ポリシー策定後を見据え、学内で実際に研究者を支援する体制の整備、学内における研究データ管理への意識向上や周知、今後のデータ管理に必要となる職員のスキル向上など、運用を踏まえた課題をあげている機関が見られた一方で、GakuNin RDM と JAIRO Cloud の連携について詳細が分からず、データ公開までの具体的なプロセスが明確にならないことに課題を感じる機関もあった。

4) ポリシー策定済の機関

大学として策定したポリシーに実効性を持たせることを課題としており、部局での実施要領等の制定支援や部局に示す雛形等の作成等をあげている。また、研究データの取扱いにかかる具体的な課題として、データ蓄積のための研究データ管理基盤（GakuNin RDM・機関ストレージ等も含む）の検討および公開基盤としての機関リポジトリとの連携等をあげている。その他、データ・マネジメント・プラン（DMP）の国内外の動向把握や、実験系データが多く、先行事例も多いと思われる STEM 分野と異なる分野を持つ機関では、研究データの管理・公開のニーズが異なることが想定され、事例も少ないため、他大学事例の収集や学内ニーズの調査が必要となるなど、運用に向けたさらなる情報収集の必要性をあげている。

中には、周知・広報・啓発活動等を計画する機関がある一方で予算、人員ともに厳しく、研究データ管理にかかる環境整備及び支援を実行する計画が立たないとする意見もあった。

5. 各機関からの質問事項

各機関から集まった「他機関（特に先行する大学等）に聞きたいこと」を内容別に整理した。研究データポリシー策定前の機関からはポリシーに関する質問が寄せられ、またポリシー策定済の機関からはポリシーを踏まえた実施方針、ガイドライン等に関する質問が寄せられた。その他、システム面を含めた研究データ管理・公開に関する質問、人材育成や図書館以外の部署との連携に関するについては、ポリシー策定の進捗状況に関わりなく寄せられた。

➤ 研究データポリシー策定について

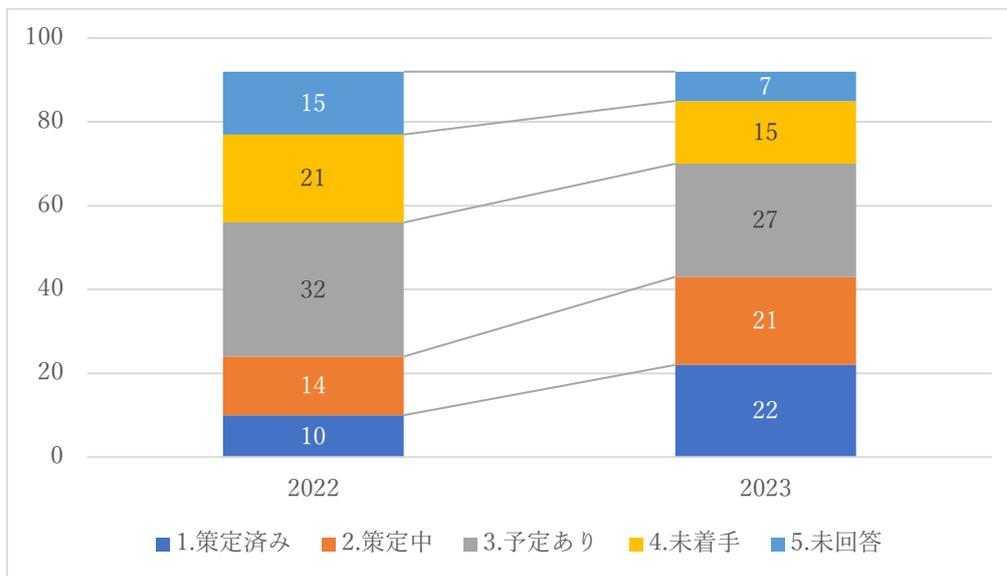
- ・ ポリシー策定前に準備しておくべき事、留意すべき事
- ・ ポリシー策定にあたり、まず何をすべきか
- ・ ポリシー策定までにかかった時間
- ・ ポリシー策定の具体的な経緯やプロセス、学内合意形成
- ・ ポリシー策定の主体部局と策定の進め方
- ・ 研究データ管理の概要、必要性、メリット、実施しない場合のデメリット等の説明会や講演会が必要
- ・ 学内向け説明資料の雛形がほしい
- ・ 中小規模の機関の事例、策定に向けてのデータ有無や策定のニーズの把握、進捗状況
- ・ NII 作成全国版研究データポリシー・内規・ガイドライン採用の予定有無
- ・ ポリシーにまつわる学内ニーズ、意見、要望
- ・ ポリシーに対する教員からの問い合わせ事例

- 実施方針等，研究データポリシー策定後の動きについて
 - ・ ポリシー下の実施方針，ガイドライン等の策定を積極的に進めている大学の事例
 - ・ 策定したポリシーや実施方針の実施状況についてのモニタリングを積極的に進めている大学の事例
 - ・ ポリシー策定後の具体的な進め方
 - ・ ポリシー策定後の運用や実効性を持たせるためにすべきこと
 - ・ 部局でのガイドライン作成にかかる主導部署等
 - ・ ポリシー策定後の各研究分野特性に応じた個別指針等の作成事例
- 研究データに関する学内の体制および図書館の役割について
 - ・ 関連部署との連携および分担体制の構築について
 - ・ 研究データ管理・利活用に図書館が携わっている場合の具体的な業務内容と体制
 - ・ ポリシー策定の前後それぞれの状況での研究データ管理支援関係部局の役割
 - ・ 研究データ管理・利活用にかかる人材の確保，担当者育成，スキル向上
 - ・ ポリシー策定前後での実際の業務の具体的な変化，影響事例
 - ・ 担当職員への研修支援体制
- データ・マネジメント・プラン（DMP）について
 - ・ DMP の国内外事例
 - ・ ファンドによって様式が異なる DMP の雛形提供
 - ・ 公募型研究資金の新規公募にかかる DMP 及び連動したメタデータ付与等の必要性の学内周知や相談対応
- 研究データ管理について
 - ・ データ管理のフロー
 - ・ データ管理にかかる業務実態，登録事例
 - ・ 研究データファイルの形式，サイズ等の取り決め
 - ・ GakuNin RDM を含めた研究データ管理基盤構築に積極的に取り組んでいる大学の事例
 - ・ 研究者ひとり当たりのストレージ容量
 - ・ 機関ストレージの整備状況，総量算出方法
 - ・ GakuNin RDM を利用している機関の事例
 - ・ 研究データ管理にかかるシステムやストレージ等の費用負担
 - ・ GakuNin RDM の管理・運用担当部局はどこか
 - ・ GakuNin RDM の利用について，Open IdP で利用している機関の事例
- 研究データ公開について
 - ・ 機関リポジトリの運用ルール，研究データ公開のための申請方法
 - ・ データ公開の可否判断
 - ・ 研究データへの DOI 付与（国内の全体的な潮流）

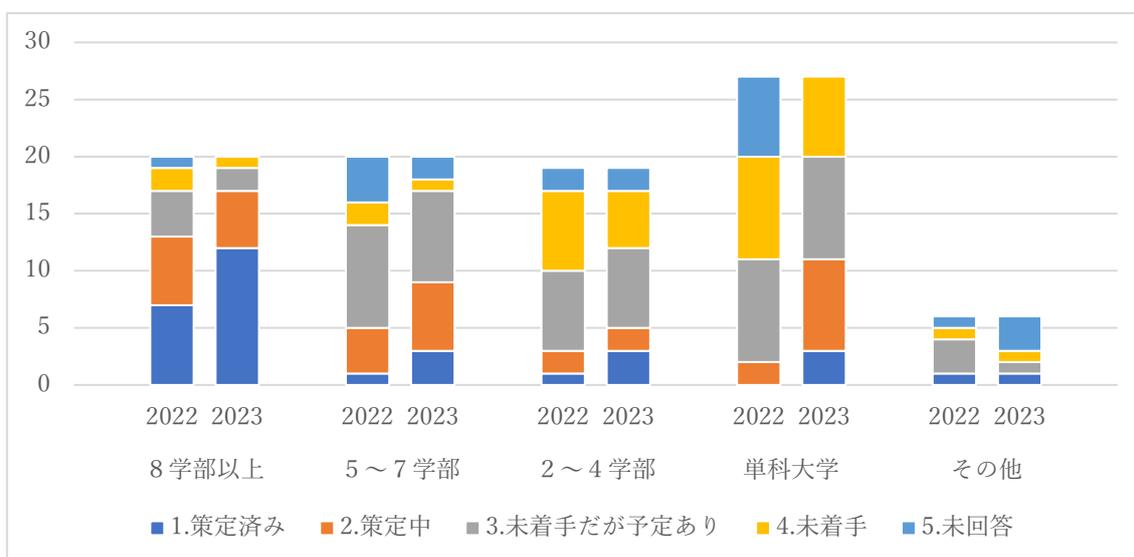
- ・ 機関リポジトリによる研究データの公開・利活用の具体的事例
- ・ 研究データ公開基盤のストレージ容量の積算や運用方法
- ・ 機関リポジトリを JAIRO Cloud に移行した場合のメリット・デメリット
- メタデータ全般について
 - ・ メタデータの付与方針，事例，体制
 - ・ メタデータの記述方法，付与の仕組み
 - ・ 研究分野毎のメタデータ対応
- システム全般
 - ・ 研究データの管理保存基盤，公開基盤の在り方
 - ・ JAIRO Cloud と GakuNin RDM の連携
 - ・ データ基盤全般について，ストレージやプラットフォーム
 - ・ データ管理および公開基盤の具体的な選定プロセス
 - ・ NII 研究データ基盤（NII RDC）の機能追加の予定など
- その他
 - ・ 研究データに関する教員の意識
 - ・ 研究データ公開の研究業績評価の実績および具体的事例
 - ・ 学内ニーズ調査
 - ・ 人文社会学系単科大学の事例
 - ・ 複数大学による研究データ管理支援業務の共同運用が可能な体制作り

回答のまとめ（前回アンケートとの比較）

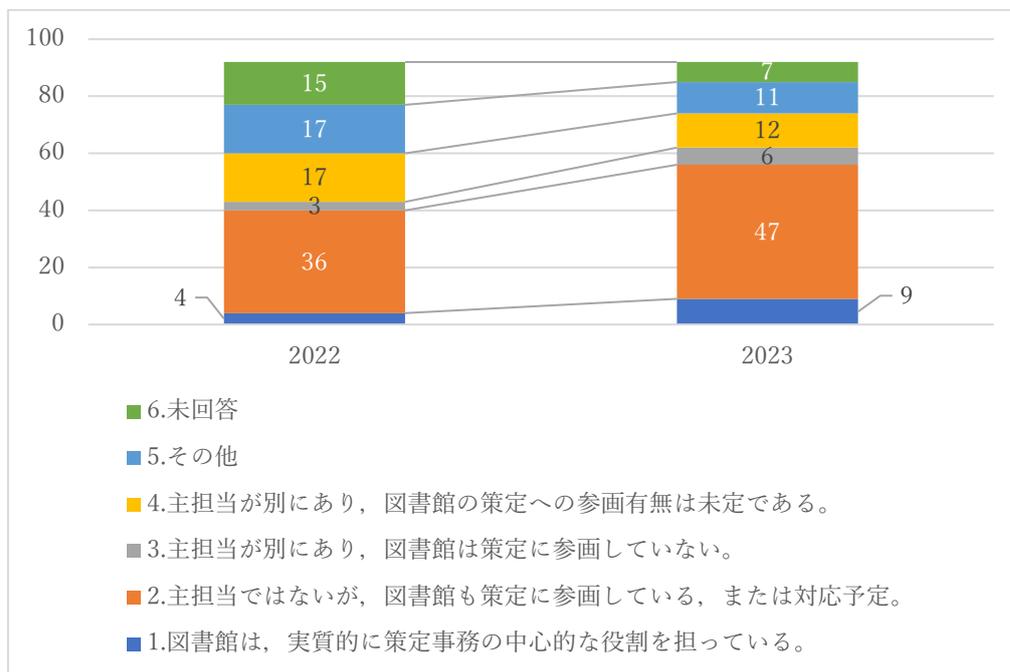
質問 1. 貴学においてデータポリシー策定状況は現在、どの段階ですか？



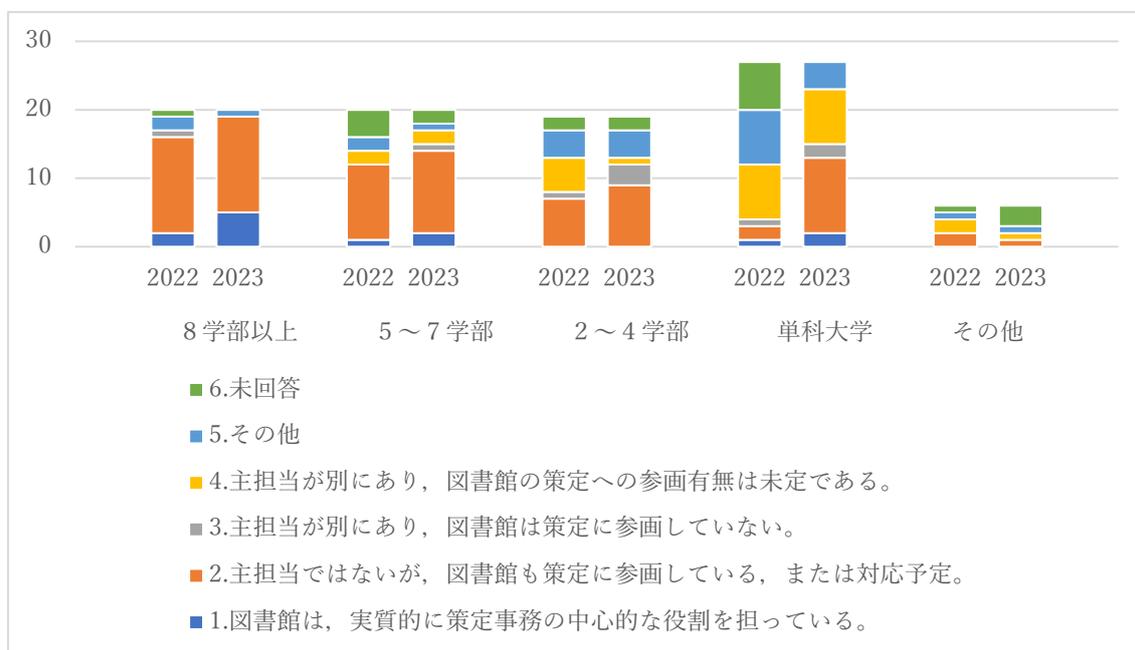
(大学規模別)



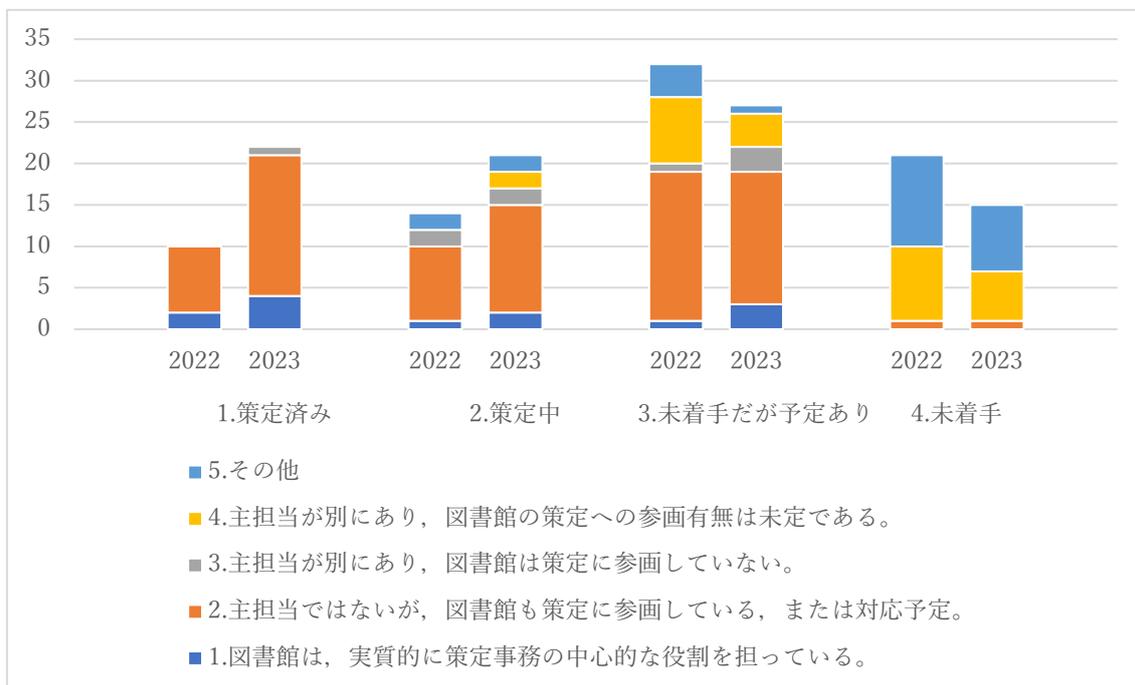
質問 2. データポリシー策定に、図書館は関与していますか、または対応予定ですか？



(大学規模別)



(補足：質問1と質問2の回答結果のクロス集計)



(別紙1)

アンケート調査
「研究データのポリシー策定および管理等への図書館の関与について」

<https://forms.office.com/r/3jAWDEsNZ1> (こちらの URL から回答願います。)

第9回統合イノベーション戦略推進会議(令和3年4月27日開催)による「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」に基づく、文部科学省研究振興局参事官(情報担当)付学術基盤整備室(令和3年6月2日付け発出文書)『「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」について(通知)』への対応等について、各機関内での研究データの管理・利活用に係るデータポリシーの策定および適切な取り組みの依頼について、対応状況等をお聞かせください。

本調査へのご回答は、各館の状況を把握し、今後の国立大学図書館協会活動の参考とさせていただきますが、館毎の回答内容を個別に公表することはありません。回答の集計結果のみ、国立大学図書館協会ウェブサイトから公開します。お答えいただいた館名および連絡先等の個別館が特定できる情報は、国立大学図書館協会資料委員会が回答内容のご確認や今後の情報共有等の活動に使用するものです。

なお、ご回答にあたり、大学に複数の図書館がある場合は中央(本)館の機能を持つ館が代表でご回答ください。

アンケート回答期限：令和5(2023)年6月16日(金)

■回答者について

大学名/担当者所属/担当者氏名/連絡先メールアドレス(記述)

■研究データポリシー策定について

質問1. 貴学においてデータポリシー策定状況は現在、どの段階ですか？

回答

- 1-1. 策定済み
- 1-2. 策定中
- 1-3. 未着手だが予定あり
- 1-4. 未着手

質問2. データポリシー策定に、図書館は関与していますか、または対応予定ですか？

回答

- 2-1. 図書館は、実質的に策定事務の中心的な役割を担っている。
- 2-2. 主担当ではないが、図書館も策定に参画している、または対応予定。
- 2-3. 主担当が別にあり、図書館は策定に参画していない。

2-4. 主担当が別にあり，図書館の策定への参画有無は未定である。

2-5. その他

質問 3. 質問 2 の回答 2-5 の方に伺います。現在はどのような状況なのか具体的にお教えてください。

回答 3. (自由記述)

質問 4. データポリシー策定について，現在の取り組み状況，体制および，現在抱えている課題等について具体的な内容，その他ご意見等がありましたらお教えてください。

回答 4. (自由記述)

■図書館の役割について

質問 5. 現状もしくは今後，図書館は研究データ管理の中でどのような役割りを果たしていますか，または果たす予定ですか？

回答 5. (自由記述)

■その他質問等

質問 6. 最後に，研究データポリシーの策定および研究データの管理・利活用に関して，お知りになりたいこと，他機関（特に先行する大学等）にお聞きになりたいこと等がありましたら，自由に記述ください。

回答 6. (自由記述)

※ 前回調査のまとめ（報告書「研究データのポリシー策定および管理等への図書館の関与について」2022年9月）を国立大学図書館協会資料委員会ページに掲載しています。

<https://www.janul.jp/ja/projects/sirc>

https://www.janul.jp/sites/default/files/2022-09/sirc_report_202209.pdf